

米日カウンシルのヒラノ会長、米日カウンシルの幹部の皆様、ご来賓の皆様、おはようございます。岩手県陸前高田市長の戸羽太でございます。本日のカウンシルにお招きいただき心から感謝申し上げますとともに、出席いたしかねましたことをお詫び申し上げます。皆様に陸前高田市の現状を報告するため、また、今までいただいた様々なご支援に対する感謝の言葉を伝えるためカウンシルに出席いたしました陸前高市特別顧問のアミア ミラーに本スピーチを代読させますことを何卒ご了承願います。

また、本日ご参列の皆様の前でこのようなお話ができる機会を設けてくださいましたことを心から感謝いたします。何より、東日本大震災で大きな被害を受けた本市への心温まるご支援をこれまで継続して賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

震災からまもなく5年の節目を迎えますが、陸前高田市を含む多くの被災自治体の復興状況はまだまだ道半ばです。本市につきましても、震災で被害を受けなければ大勢の方々をご存知ないような小さな田舎のまちでございます。震災前の人口は約2万4千人で、震災により約1800人の尊い命が犠牲になりました。また、中心市街地も壊滅いたしました。このまちでどのように生きていくのか、どのようにまちを再建していくのか。震災の4週間前に市長になった私は、希望が見えない日々はどうしたらよいのか分かりませんでした。生まれて初めて絶望という感情を抱きました。生きていることがこんなに辛い、苦しいと感じたのも初めてでしたが、その気持ちは私だけではなく、市民の皆様も同じでした。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、市民全員の人生を大きく変えました。私もその一人です。最愛の妻を亡くし、自宅も流され、10歳と12歳の息子とどう生きていくのか。どのように父親として家族と向き合い、市長として被災した市民を勇気づけていくのか自問自答の日々が続きました。

息子たちも今は15歳と17歳に成長し、元気に育っております。反抗期の心配もなく、バスケットボールが大好きな二人です。父親としての愚痴は、次男にもう少し勉強をしてもらいたい。そして、二人にもっと野菜を食べて欲しいという程度のものです。息子たちも、私が出張で不在のときには寂しさを我慢していますが、3人一緒のときは笑顔が絶えない家庭です。

シングルファザーになって感じたこと、また、30年近く前、私がアメリカに留学した際に感じたことに共通点を見つけました。被災した市街地一面を瓦礫が覆いつくしており、まちを再生するためにはゼロではなくマイナスの状態から始めなければなりません。「陸前高田市を誰でも住めるまちにしたい」。新たなまちづくりに向けて、この思いを生かそうと決意しました。一般的に社会的弱者と言われる方々でも、生きがいを持ちながら生活できるまちを創り上げていきたい。例えば、未婚の方、若年層の核家族、高齢者、シングルマザーや私のようなシングルファザー、妊婦、外国人、身体、知的、精神の障がいをお持ちの方、LGBTの方。本市に住めば、誰でも受

け入れられ、生活環境に必要な施設や制度等が整備され、市民も快く対応してもらえるまちにしていきたいと思うようになりました。

アメリカに留学していた私は、車椅子を利用している方が普通に友達と食事に出かける風景や片腕がない方が楽しくゴルフをしている姿を見て、またお揃いのポロシャツを着ている老夫婦が手をつないでまちを歩く姿を見て、深く感動するとともに、アメリカ滞在の大きな思い出にもなりました。被災した市街地を新たに整備するうえで、インフラ面だけではなく、生活する方々の気持ちに配慮したソフト面も考慮し、誰でもウェルカムという環境をつくり上げたい。容易なことではありませんが、これが私の大きな希望の一つです。

皆様におかれましては、数年先に復興事業が完成する新しい陸前高田市をぜひご覧いただき「あのとき市長が話していたことはこういうことだ」と認識していただきたく存じます。

変わり果てた陸前高田市が今日、復興に向けて邁進する姿を皆様にご覧いただくことができるのも、震災後に皆様から頂いた温かいご支援の賜物でございます。

当時、水、食料、衣類、布団、薬がない我々に物心両面で支えていただいた皆様に対し、深甚より感謝申し上げます。食料やライフラインが寸断された環境の中で生活しなければならなかった我々を支えていただいた皆様の善意に心から敬意を表するとともに重ねて御礼を申し上げます。

今後も市長として、市民の方々の気持ちに寄り添いながら、心豊かに安心して暮らせるまちづくりに向けて、市民一丸となって取り組んでまいります。

また、亡くなった妻に「よく頑張ったわね」と言ってもらえるような市長、父親であり続けるためにも、課題をひとつひとつ丁寧に解決し、魅力あるまちづくりを進めてまいりますので、皆様方におかれましては、引き続き本市に対し温かいご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

交通手段が少ない、東北の田舎町ではありますが、ぜひ皆様にも本市を訪れていただきたいと存じます。本市を応援してくださる方々に向けて復興状況を発信し続け、これまで我々を見守ってくださった皆様方とともに震災から復興した新しい市街地を歩くのが私の夢であり、この夢をかなえるため世界に誇れる美しいまちづくりを展開してまいります。

結びに、これまでいただいたご支援に対し深く感謝いたしますとともに、今後も温かい応援を賜りますようお願いを申し上げましてご挨拶とさせていただきます。